

まんがジャーナル

創刊号



木雄

満天の渴望に添えてここに本格的まんが評論誌

堂々の刊行!

もくじ

- ◎ なぜ ぼくらは それでも まんがを
読むのか? (高宮成河) — 3
- ◎ “跳び越せない側の子供たち”
— 樹村みのり 読ノト その1 —
(亜旋じゅん) — 9
- ☆ お知らせ — 12
- ◎ ロマ・コ× 華麗な世界への招待
(中込寛) — 13
- ◎ 悪い冗談★あるいは★ダディ・
グスについて私にも知らない23の事柄
(村上知彦) — 17
- コラム・こらむ (井上幸一郎) — 22
- ☆ 折り込みジャーナル — 22と23の間
- ◎ 薄明の現在について
(中原 蘭) — 23
- ☆ 編集後記・次号予告 — 27



ぼくらのアイドル ニジンスキーに
ほけましの おたよりを出そう!

現代思潮社「ニジンスキーの手記」¥900

◎ なぜ ぼくらは それでも まんが
を読むのか? 高宮成河

高宮成河

題名に反して、この文章はまんが批評のことから始まるのだ。何故かといえ、まんがジャーナルは御覧のとおり文学ばかりで、まんがに関するゴタゴタはいろいろ並べている小冊子だ。そしてぼくの限定されている「まんが」に関するつき合ひの中で、の大方の意見と云えば、「まんがに閉する批評なんて必要ないさ、要はまんががオモシロけりゃいいんだ」というやりなので、一応ぼく、あるいはぼくらがどうして、どんな立場でこの本を創ったかを説明する必要はあると思うからだ。

上記の意見の裏には、まんが評論へは又批評、又はゴタゴタの全否定ではなく、ただ単に今まで発表されてきた いわゆるまんが評論な

るものは全くオモシロクないという気持ちがあるような気がする。現にそう云う人間に限って、同様のものが二三人集まると、かなりノッてまんがについて語をしゃべっている。つまり手短かに云うと、横行しているまんが評論と、ぼくらがまんがについて考えたり感じたりしていることと、かなりのズレがあるというのだ。

では、そのズレは一体どんなものか? と考えてみれば結局のところ彼らへ評論家諸先生とぼくらとは、まんがを同一の意味で所有できない。云い切つてしまえば、ぼくらは面映ゆくも純粋まんが世代であり、彼らはそうじゃないということがあるのだ。

さてそれでは、彼らとぼくらとはどう違うのか、と云つてはぼくは彼らをよく知つてゐるわけじゃないから、主にぼく、あるいはぼくらについて云いたいと思うんだ。よく知ら

「オニのリアリティ」の底には在る
というところがある。「オニのリアリ
ティ」の中に居る時のぼくらは殆ん
ど二重人格者だ。「オニのリアリテ
ィ」つまり、まんが世界に頭までつか
まっている自分と、そんな自分を醒めた
目で見てゐる自分とが、ほぼ同時に
存在してゐる。「たかがマンガ」レ
云いながら、その言葉に或る重さを
こめて使用してゐる筈だ。
さてここでようやく、先行機来す
る各まんが評論にもどるべきがでさ
る。それらとぼくらとの間にあるズ
レは、「つまり」の「オニのリアリ
ティ」が各評論の言葉の裏にあるか
ないか、(四)又は、各まんが作品を振
うのキ、そのベースとして「オニの
リアリティ」が存在してゐるか、(三)
それに加えて「たかがマンガ」レと云
える醒めた目を所有してゐるかどう
かによつて発生してゐるのだ。くだ
いて云えば、まんがが民衆の武器で
あるだけの戦術社会とまんがだけの
「オニ」のリアリティのみをバ
イスとして、まんがを評価・評論す

るといった態度は、ぼくらにとつて
もはやアンセンス存のだ。とは云フ
ても、ぼくらにはそれらの態度を全く
否定しようというのではない。問題
は、まんがを現実のリアリティのみ
を標準として、評価・評論するとい
うところにある。
もつとくだいて云うなり、ある一
つのまんが作品を優れているという
だけの理由で批評・評価したなり、
つまり例を挙げれば、一人の美術評
論家がカミイ伝を、美術的、文藝的、
思想的等に優れてゐると批評したな
ら、それはぼくらとは決定的にズレ
てゐるのだ。彼がカミイ伝を優れて
いると認めるということは、云いか
える、カミイ伝が彼の精神世界の
一角に有意味な位置を占めるという
ことだろう。しかしその精神世界が
美術的、文藝的、思想的なもの、
まんががその要素として構成する世
界でない限り、その批評・評価は
ぼくらとは永遠に無縁だ。そしてそ
のような批評・評価をぼくらは賛成だ
と認めつける。どのような資格で、

ぼくらには、まんがをあるべきもの、
共通言語として自覚してゐるといふ
ことと、過去から現在まで、それが
優れてゐる、いかに開けられ、ま
んがだからこゝを饒みださないうこ
と、加えて現在、自分の存在の主要
素として、まんがという語を軸とす
る世界を所有してゐるといふことに
おいてだ。
ぼくらには、まんがとぼくらとの共
有関係という言葉(五)もふり切るこ
とができる。ことさら共犯などとい
う、まんがとぼくらとの間に電位差
をつくり出し、使用しなくとも、ぼ
くらにはまんがとはもうスキマなくく
ついているのだ。共犯という言葉は
醒めた、或る行為か、犯してあると
認識する意識という内容を含んでい
る。ところがぼくらには、まんがとい
ふ言葉はもうここでは使えない。ぼ
くらにはまんがであり、まんがはぼく

らだけのだ。つまりぼくらは全く
「犯」を意識しない。イヤレなくて
もいいのだ。たとえ、他者が側で見
まいて、それは「犯」だと云つたと
してもよい。それに開きなおつて
云えば共犯関係なんぞゴトバは、ま
んがに対して使用するにはイサリカ
おあけさすぎるのだ。
又もや危険を覚悟で云い切つてレ
まえば、まんがに關して「オニ」のリ
アリティは必要ではない。「オニ
のリアリティ」をベースとして、発
表されるすべてのまんが作品は、ぼ
く個人にのみ発表されてゐる。ぼく
は絶対君主の立場ですべてのまんが
作品に臨むのだ。だからぼくらは、
批評まんが世代であり、エリートな
のだ。
「おし」のジョーレが終つて、
他に見合うだけの看板作品がない少
年マガジンは、ある程度、発行部数
が減少するだろう。しかし他ならぬ

それがまんがだから、なお読みのつづけている人達、その人達はつづけたのジョーシを読みつづけて、それ以上に「まんが」を読んでいるのだ。そしてその人達は、ぼくらと世界を共有している。

なぜ、ぼくらは、それでもまんがを読むのか？ その答は、いさゝかギマンめくのだが、「なぜ」という言葉は、ぼくらには必要ない。ぼくらは、それでも、まんがを読むのだ。と云えば、それで十分なのだ。

73.4.29 輔

- ① 「白痴有無」8号 岡崎義和・公書評・宮谷一彦・性触記
- ② 「まんがのむし」通巻9号 青木治道・編集後記
- ③ 「まんがコミコニケーション」斉藤次郎・まんがコミコニケーション宣言

◎ 跳び越せない側の子供たち
— 樹村おのり論ノート その1 —

亜庭じゅん

「薄明の現在」に樹村おのりのリについて随筆にたと書いたら、「跳び越えないとび箱」という作品を例に挙げて、ドラマ性もあるのだという批判を受けた。この作品についてのどういふ評価は、以前にも書いたことがあり、知ってはいたが、最近まで作品をみるチャンスがなく、拝聴するに比べておいてあったのだ。ところが、偶然とび箱を手に入れることができた。その結果、数少ない作品しか知らない私も、自分存りの樹村おのりの像を捉えられそうなきがしてきたので、いわばオトシマエをつける意味で、樹村おのりの論を提出することにした。

ところで前述の「ドラマ性」云々の批判についてだが、この批判には

☆ スローガン

殺すに殺せず、生かすに生かせぬ事態に立ち到って、ナグリ殺しのめにあい、いまだ明幽の場面に迷っている我らのジョーのため、梶原一騎・ちばてつや・少年マガジン編集部を救えう!!!

ぬり忘れたのではない



ある程度誤解が含まれている。こちらの用語の不適切もあったが、随筆と称したのは、(むしろエッセーと呼ぶべきであらう) 樹村おのりの作品相成の方法論についてのことばだったのだ。後で詳しく述べるが、樹村おのりの作品は、基本的に一人称の作品であり、作品の表面で展開される筋の起伏、人物の心理経過の背後に、作者自身の内部の論理の展開が看取される。そしてそれが、虚構世界として自立した空間の閉じられぬ穴となつていく点、その非完結性故に樹村おのりの作品が読者に突き刺さつてくる質を獲得しているという意味において、僕はあえて随筆凡と云つたのだ。樹村おのりについて諸君とすると、たとえば萩尾望都や水野葉子について語る時とは異なる、たまたまのことばが必要とされ、樹村おのりという人間像に触れることなく作品を語るという客観的な、安全

存在に身を置くことにより、その長さを感ぜざるもの、そこに理由の一半がある。樹村の力に力いて語るというものは、必然的に樹村の力を凌駕することであり、その危険と責任を負うことなのである。

さか問題のフ跳べないといふ箱しである。この作品は、リボンコミックが廃止された翌月、五月五日に発表された37頁の大作である。家に新しいおかしな人々が来るというその日、帰宅が遅くなったために、その母親に對する心持を素直に表出する社会を失った少年が、その娘に甘えたいと思いつつ、それを表に出せず、その態度を母親への横暴と誤解する周囲に對して、自分の心を閉ざさざるを得なくなつていく過程を、体育の時間に跳び箱をよぶことのできないうといふことにガアル・イメージさせながら、最後は、友人のこの壁が、なんでもないことの上に築かれていたと悟り、少年はとび箱をよび越える。――以上がその概略である。

ある。樹村の力に力いては、やがて長ではあるが、しかし、少年が完全に自分の中に閉じ込められ、踏みおきられ、身を任せられた時から、一転してクワイマックスに至る、少年の心を縛つていたものが次々に崩れてゆく過程の盛り上がりは、オゾとあり、劇的と形容してもおかしなない。にも関わらず、僕が樹村の力をドラマの作家と呼びたいのは、この作品が、一見心理を描いているが、実は二二にあらわねされていくのが論理からなるのだ。

この作品の扉絵の上方に「フとリ」と、この書き込まれている。「跳び越せない側の子供たち」(傍点 重慶)というまでなく、この作品の主人公は一人であり、その意味から言えば、二二は「子供たち」ではなく「子供」であるべきだろう。それが「子供」と複数になつていくには意味がある筈だ。二二で考えなければならぬのは、実は、樹村の力の作品の多くが、デビュー作の「ボクニツク」。

然、既にどうであつたように、この「とび箱」と同じく心の中に築かれた壁の問題を、多かれ少なかれ扱っているといふことである。(これは大げさな芝居がかった理由によつて築かれたものではなく、この作品にみられるように、ちまたに散らばれ、日常生計の小さな亀裂にしかし、それ故に一層本質的なものというモノに起因して作られたものなのである。それがどのような性質を持つものかは後述するが、自己に對して大きな固執を持ち、それには云つておこつたことすれば、この「子供たち」とは、単にこの作品の主人公の第一君を指すだけでなく、より一般的な意味あいを含むべきを得ないこととが理解されるだろう。ところが、この「とび箱」からこの作品を振り返つてみると、次のような事実が気づくことになる。すなわち、この「とび箱」の名を与えられた少年が、実は、一つの無知性の上に構築されている。

ことである。第一君は、無知、観念の産物であるデク人形ではない。しかし、読後、読者に迫つてくる感動は二人の人物のキマクターでも生活の奥底でもない。そこには、心理的描写の巧みさをも入る余地はない。長だに倒的の一つのダイナミズムの軌跡が、沈潜から一転して輝きわたる解放へと向かう運動のエネルギーが、この感動をもたらしつつある。樹村の力の作品の与える感動の強さは、この純化されたダイナミズムの力によることが大であり、そのために二二はキャラクターの無知性を要求されているのである。そして、その無知性にあるのは、一つの「私」であるだろう。樹村の力の作品に關する限り、極論すればキマクターとは、この「私」以外に必要とはされない。先にも述べたように、作品の描くのが心理ではなく、ダイナミズムの線に抽象化された心理過程である。

ある以上、それは、特殊化された個人の心から離れ、一般化されていかざるを得ないのではないだろうか。こうして問題は、この「私」が、作者と読者の間、いかなる関係にあるのかという点に拘って行くことになる。

(二の橋をく)



早平くんときさちゃんのお休みの絵日記 (5)

★お知らせ★

早くは又今、効果的なきんが評論の身体術を法論を、模索中であります。

各種の企画が予定されていますが、その最初の試みとして、「まんがゼミナール」を開催したいと思ひます。

その「まんがゼミナール」のテーマを募集します。

いかなるテーマであろうと、皇国随一のチームワークを誇る まんがジャーナルは受けて立つのです。

ぼくらは、輝く日本の星となるため、日夜 戦い続けているのです。

大山倍達大先生を おいこすために 空中四段ゲリを完成させよう！

◎ ロマ・コメ 華麗な世界への招待

中込 寛

パイオニアというか、僕一人だけがある趣味をやっていると思つていた時は寂しく、むしろ仲間で欲しかったが、ひょつとしたら一番楽しかった時だったんじゃないだろうか。5月とかロックとか、いろいろあるわけだけれども、僕一人と思つていたのが、皆相手の知識人だったりすると、うれしい、やつと仲間に会えたと思つていたのに、その方が先ずくる。

その段階がすぎると次はその仲間とダベり始め、やがては本の趣味よりもその仲間とダベる方が楽しくなるのだが、これはまづさとおこう。本当のとは、もつと書き込みたいのだが、というのもその仲間が集ま

てダベる楽しさというか、その中のコンストラクティブな面を全く理解できず、時間の浪費のように考え、なにか高尚な議論をしななければ、という馬鹿が多すぎるからなのだが。そして時にそれはマンがフマンの中に多いというところ。僕一人だけが話をもつていこう。僕一人だけが少女マンガを読んでいると思ひは、ずいぶん前から徐々に消え始めたが、漫画大会の会場で十数人の同好者に会つた時、それこそさつさ書いてみよう。チヤッという気持ちになつてしまった。

しかしそうやってモヤッぱり僕一人というようにしたい気持ちはあつたので、僕等へしかたなく模倣になるが、その趣味は少数派というか、本当の少女マンガの面白さのわかつているグループとしかなく付てくる。となると当然というより、マンガがマニアなら常識だが、いわゆる漫画

評論家の言うに一言も触れないか、下らんと云い切る手合はバカ、アホ、アキメクラと有る。こゝで一人一人をとりあげ、石子順造、少女漫画は目玉が小さくならない限りダメ。へん書人。アホか？ ○○（例えば萩尾望都でも水野英子でもなんでもいい）読んでことあるのか、ナンセンス。なんでもナシでもいいのだが、品が悪くなるし、これを読んだら読者にはアタリマエと思われ、常識の省略しよう。それにいすれ他の人が、いれゆる評論家のピントはずれな点にツいては、こゝで書いてくれるだろうし。

とにかく少女マンガは、現在隆盛期にあり、今、特出すべき作品はほとんど少女マンガが誌に発表されてゐることは読んだことのない人以外なら、よっぽどのバカでない限りわかることだろう。つまり、いまや水野英子・萩尾望都・竹宮恵子・もりたじゅん・一条ゆかりなどの作品群は高く評価されて当然なことだ。こゝで先程のバカ少女マンガの本

当の面白さとなるわけだが、上記の作家のある作品群は、もはや少女マンガといつたりクの外にあり、昔、COM誌上で、ときたま見かけた少女マンガの市民権々という類への例証にはなりえない。

こゝでとりあげなければならぬのは、もつとも少女マンガらしい少女マンガが、どう通称ロマ・コメと呼ばれてゐる作品だろう。

ロマ・コメと呼ばれるものの悪口は、それこそいよいよ程間かされてきたし、二の僕もいつてきた。くり返そうか？ いわく「男・女・女の三角関係のみ、いわくパターナリズムの女（美人）可愛らしい女のゴハロイン（ハンサムの三人が描けりゃいい、いわく疑似恋愛ゴシップ）しかし、この非難はそのまゝ裏返しにそのまま少女マンガのオモシロさにつながらぬのだ。」それだからオモシロイのだよ。の一言で軟弱に片付けてしまおう。クラシック台所のこゝで野田宏一郎氏が一つ一つの作

品は、完成度とか密度を問われると砦かに低い、それがゴキマセになつてかもし出す雰囲気、それが好きだからスバオを読んでゐる。といった意味のこゝを何かで書いていた。それはそのまゝロマ・コメに通じることなんだし、ロマ・コメの本質なのだと思う。

と、こゝで言い切ると華鳥幸子や大和紀のモノも住石りえや牧野和子も同列ということになるかおない。しかしこゝで、さっき云つたステロタイプ化されたストーリーという言葉がでてくる。設定・人物・成が似かよつてきた勝ち負けは和図・コマ割り・画面が大きく左右されるし、その設定で一ひねり二ひねりされてゐたりそれこそナンバーワンだ。どうするとこゝで忠津陽子の知を登場させねば、なにがロマ・コメ、ンという非難をうけるだろう。豊富なきヤラクター・華麗なコマ割り・

ゼンスあるギヤグなどヤ一人者と云つては云いすぎだろうか？

忠津陽子の登場は、それまで主流だったいわゆる泣きメロ・スポコンをおさえ、恋愛マンガの毛づ陰湿さを払った。まったく新しい作品群「ロマ・コメ」の地位を砦かなものにしてといえる。

しかし忠津陽子がオモシロイと僕がいつたからといって、パツと読んだマーガレットの作品がオモシロくないといわれても困る。

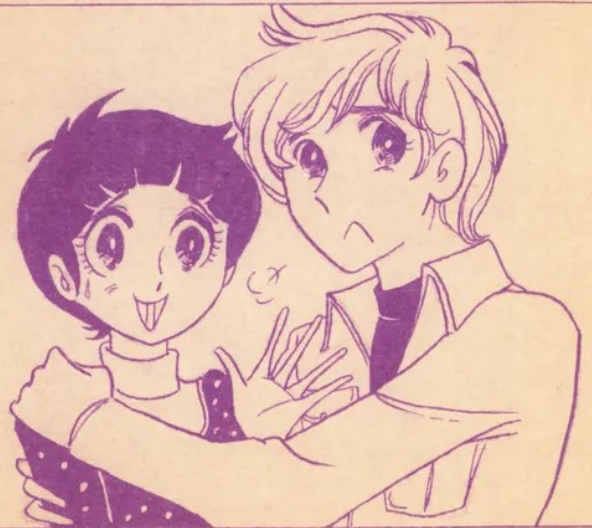
さっき書いたようにロマ・コメはそれらの織りなす雰囲気を読み、その中に浸り切つてこそオモシロイものだし、特に忠津陽子の場合、長編があまりうまくないという欠点がある。へ長編のロマ・コメなら、むしろ一条ゆかりがもしないし、レカも原作者つきの作品を読んだの苦情なら、おさのどくですが、あはれはもつとも下らないカスをつかまされぬの

3

その1

ハ
ア
〜
L

大橋巨泉



村上知彦

スの最高作もまた
心情的には一

彼はおどろくほどに醒めてゐる。是

の醒れた手はでしがパロディとミス
テリノ結合を生れ出す。
また真崎・守にまいもどつてしま
たが、スクリーンが鏡であるなら、
女座のスクリーンをばさんで、ダ
ディ・グースと真崎・守は少くとも
2・3度出会っているはずなのだ。
COMの「白夜」(宮谷一秀)でも
二人は背中合せにペーパー・ジャ
を行なつていた。へその名の表紙が
ナゼか和田誠描くところの「吸血鬼」
であるのは関係ナイかな。真崎さん
！満更端うすき仲でもないはずな
のだ。そう思うと、「焼けっぱちの
ブルース」の「スタイル」を変えた
けじやグメなんだな。ことに近ごろ
はダメだ」と語るタバコをくわえ
男の口元のシヨットが市川崑に思
えるからおもしろい。
真崎・守も今や映画評論家、ダ
ディ・グースは矢作俊彦と免れつてミス
テリ作家だ。
事のなりゆきでもう少し真崎・守
につき合つて頂く。映画芸術復刊6
号を読んでもらえればいい。

のだが、またトートツに引用しよう。
「行為としての漫画は、その視座が
鏡の中のプリズンにある。で、こ
れが鏡の外に飛び出すと、映画はど
と叫ばれるのは余談」鏡とはスクリ
ンであり、定型とパロディをのり
で鍵である。ダディ・グースも真崎
・守も、漫画と映画をつなげた第
三の視座を求めている。たゞ違ふの
は、真崎・守は漫画の側から映画を
媒分にして、映画から二ばれ落ちる
ものをすくいとる方法を、目的意識
的に追求しているのに対して、ダ
ディ・グースは映画の側から、漫画では
決して描けない漫画を描こうともが
いてゐるのだ。
さてようやく辿りついた。「焼け
っぱちのブルース」について語つて
いた。時は1970年4月から11月。
登場人物は5人の男。1人は元ガ
ントの漫画家。1人は元芸楽の映画
屋。1人は純粋右翼。1人は東大
学部。1人はアラブ族と元青
二のダムのダイアローグと年紙で
この作品は相成されてゐる。6・23が

あり、女が一人自殺し、三島が死ぬ。
彼らは常に死にがいな語り続けなが
ら結局は生きのびてしまふのだ。
「焼けっぱちのブルース」は、そ
れでなくとも混然としていた彼のそ
れまでの作品を、更に全部かきく
めてオタマゼにしたような作品だ。
それまで「命枯れてモレ」(ドンキホ
ーテ)「お前は誰だ？」(ビートルズ
だつて夏を歌えない)のハードボイ
ルド的傾向と、「若の下に君が世界
を」(「学聖の星」のバロディ)の、
ダディ・グースにおける2つの作品
傾向の流れが、ここでひとつに融合
する。「焼けっぱちのブルース」の
ダディ・グースに似ていつならば、若者
はビートルズ・岡崎友紀であり、後
者はダディ・グース・目黒俊樹なのだ。
このダディ・グースの描き出し、男様
までの執着はダディ・グースに必
うひとつの鍵だろう。ストリーを
無視してまでもダディ・グースにさ
がる

彼に、感性的に拒否反応をおこす読
者が多くいても不思議ではない。こ
二には明らかにアメリカン・ポップ。
アートの影響が感じられる。だから
こそおそろしくダディ・グースは、米
帝国主義の喉笛をかき切るデロリス
トに作る必要があつたのだらうし、
ダディ・グースを引き合いに出さずには
いられなかつたのだ。
「焼けっぱちのブルース」以後の
ダディ・グースは再度二極分解をほ
じめる。「貧乏くじを引くが引くし
「マリー・アントワネット」の千り紙
を換へ「馬鹿馬鹿」の真在長中
犬死しちゃうための方法解説」で目
光飯面そのものを主題に、「マリー・
アントワネット」の下駄占いに「おハ
百屋おシツちゃん」で岡崎友紀自身
を主題にすえて描きはじめたのだ。
いや「焼けっぱちのブルース」を相
いてしまつた彼にとつて、デューマの
選定などとはやがてもうぐいさだ。

左のほう。もともと美術・中のよ
うに方法的自覚に富み製作で同
く、映画の優さの著しにせしめ
なかつたのだから。それが果て、描
きたものだけを描きまくつたら、
たまにまこの二連の描き果上が
たというだけのことで、もともとは
ひとつだと考へる方が安かとも知れ
ない。

そして返つて来るうちに、左
俊彦名義のミステリ小説「抱きしめ
たい」が登場するに及んで、事態は
全く新しい様相を呈しはじめた。文
筆に転向したから、というのではな
い。グレイ・グースに比べて映画以
外のメディアはすべて代用品にしか
すぎないのだから。そうではな
く、上手すぎるのだ。せつかく切り
抜いてきたミステリとパロディの融
合したあの語り口が清々としてしま
っている。「命枯れても」の地点からや
り直したと思えばそれはそれで良い
のかも知れないが。

一方、ハヤカワ・ミステリマガジ
ンに連載中の「長いお別れ」で、グ
レイ・グースはまた新しい一歩を踏
み出した。オ리지ナルのストーリー
を放棄した二巻目以降は、もとよりさ
て珍しいとも云へないが、銀河場合
あくまで映画を念頭に、多分担当
をキヤスティング、演出、プロダク
ション、と総めてやっているようなの
で、興味がもてる。それがもはや漫画に
は呼べない地点まで進むことができ
るかどうかが、グレイ・グースのチロ
ルはとりあえず漫画に向けられてい
る。

グレイ・グース 作品リスト

(不完全品)

- 69.7.30 「命枯れても」 漫画アクション 増刊
- 69.9.3 「此の下に君が世界を」 週刊漫画アクション
- 69.11 「ドンキホーテ」 お前は誰だ名！ 週刊漫画アクション
- (69.12.18 「ふしぎの国のありす」 ラッキー 週刊漫画アクション

69.12.18 「ビートルズ」 夏を歌えない川

週刊漫画アクション

70.2.6 「学聖の星」 70の部 DZ THE BEACH

サンデー毎日増刊 映画と漫画

70.8.7 (イラスト) 「19オト18オ」

サンデー毎日増刊 映画と漫画

70.10 「蒼ざめた野次馬」

COM

70.12.4 「悪い冗談」 (未完)

ミッドウインター ⑤準備③

71.1.24 「焼けたおちのブルース」

漫画アクション増刊

71.7.27 「貧乏くじ」 ぼくが引く (未完)

ヤングコミック増刊

71.9.3 「マリー・アントワネットの下駄占い」

週刊漫画アクション (2回)

71.11 「マリー・アントワネットのちり紙交換」

タツ子 (未完)

71.11.25 (文章) 「月光仮面暗殺物語」

筑摩書房少年漫画劇場 ⑦

72.2.23 30 「馬鹿犬かし」 の夏をた
なかに犬死したつてのり方法序説

72.5.26 「お八百屋おシツちゃん」 (未完) 週刊漫画アクション

漫画アクション増刊パピヨン

(72.6 「抱きしめたい」 矢作俊作

小説 ミステリマガジン

72.8.26 「抱きしめたい」

マンガストーリー

(72.9 「小説」 「タ焼けたスーパーマン」

ミステリマガジン

72.9.5.11 「しるしにくるくしのまるをめて」

(未完) ヤングコミック (2回)

(72.10.4 「革命」 目即書法・君にも

革命が起ころう」 スタジオナノ

ボップコミック (3回)

72.11 「文章」 「ノート云えない男」

話の特集

73.1.5.74.6 「THE LONG GOOD-BYE」

ミステリマガジン

(73.4.5 「小説」 「神様の代理人」

矢作俊彦・NOW (19)

73.5.10 「帆船の皮をむいてみな」

週刊漫画アクション (2回) 73.5.2 現在 村

④ 公薄明の現在に付いて

中原 南

今回、まんがジャーナルとして評論集を出すことになりました。私モ何か書けと云われましたので、とにかく何か書かねばならなかつたのです。このまんがジャーナルの発刊される経緯なり、評論自体の理念なり、同人の態度というものは他の同人が書いてくれるでしょうし、さしあつたこの評論対象を持ちえない私はひとしきり困惑したのち、アッ、フアに連載中の公薄明の現在に付いて評論に付いて書くことにしました。この公薄明の現在に付いては、再庭・高岩両氏はともにまんがジャーナル同人でありまして、面識もあり一応両氏の志向などもうかがつておるのですが、改めて公薄明の現在における両氏の志向性について述べ、私の基本的評論態度を明示したいと

そう思います。

「公薄明の現在」第一章銀色の少女たちには再庭氏によるものですが、冒頭に田中氏は、まんが状況の総括的把握を目的とした作業だと言明し、後に田中「まんが」という語に対する「我々」の問題意識の具体的対象を取り上げることによつて、読者は「我々」が志向している方向を、ある程度指示されるだろうし、「我々」もその指向を、この作業を通じて徐々に集約してゆくべきであります。このまんが状況の総括的把握というテーマの提出は、例えば映画好きの青年が「おもしろい」ば映画好きの青年が「おもしろい」青年が同じく「おもしろい」と思つた小説について各々の作品についてそのおもしろさを自己の内面に照応して語り出す時の感情と全く同じ質のものなのである。「おもしろい」というのは全く主観に属する感情です。

後記

ようやく出来上がりました。とは云っても計画して、原稿依頼、編集、印刷まで、全部で一ヶ月程の間に片づけられました。みんなちゃんと予定日までに原稿を書いてくれるので非常に助かります。今回は別にテーマを決めずに各自自由に書いてもらいました。本社のみ何となく、テーマがあるようになってしまっ…ゴメンばい。読んだ人、反論、意見、悪口など何か云いたいことがあれば送って下さい。待ってます。(高宮)

〒544

まんがジャーナル2月号以後が欲しい人は、郵送料ともに100円、一年分400円を以下のところに送って下さい
大阪市生野区鶴橋2丁目11-25
まの成河
TEL 06-717-3575

★その他の企画がめじろ押し!

大好評

折り込みジャーナルが来月号は
大増ページでお送りする。

ぼくらにとって、そして状況に対して、あしたのジョーは、終了して三とはどんな意味をもつのか? 終了後の状況はどうか? など化するのか

特集 あしたのジョーだ!!

◎次号予告

◎精力絶倫 三大人気番組

1. 超ド迫力・ウルトラファイト
2. 心の糧・新生アワー
3. 天下無敵 爆笑寄席

関西知識人協会 調べ

味という外比の段階で評論すること
は出来ぬわけだ。ここにありてマ
ンがはマンであるという同語反復
をまず認容することではかマンが
の意味・無意味云々と云いえなかつ
た更庭氏の無意識の状況は存在す
る。という弁に私は疑念を投げかけ
ます。
まだ第一章しか書かれていないが
薄明の現在を非難する愚を犯した
くはありませんが、本質的な問い故
に私は更庭・高宮氏に、そして公薄
明の現在とあるまんが状況に、私
は関わりがねばなりません。そ
して私達つたりマンが読む者も、
描く者もやはりマンがらジカルな
相関性を常に持ち続けていなくては
ならないでしょう。

して公薄明として存在するの
と向われればなりません。確
に映るまんが状況を解明する
大切で、しかし、いざまんが自
体を作品行為として表現する場合、
この存在論的な向を無視してある
とほごではないと思うのです。私に
まんがはやはり所詮まんがでしか
ないと思えるのです。作品行為を以
て前に所詮……と考えるからこそ、私
は逆に所詮……に重点をおさす時
点から出発したのである。
ですから公薄明の現在を重大
な欠陥が指摘できます。や一草の冒
頭に公現在という時点を、少女マン
がなんらかの意味を持ち得るべ
うか? (中略) 少女マンが現在の
状況にどうして十分すぎる程の意
味をつきつけてくると思われるか
で、どの文章を、少女マンが
単にマンがと云い換えた場合の重
要な態度が自覚的な肯定性のう
えに成り立つていくという二つの
くはらずです。公化した地点が全
てあり、私にはこうした意味・無意



和雄

まんがジャーナル

昭和48年5月4日初版発行

昭和 年 月 日 2版発行

発行所・じくろ仮面社

発行人・高宮成河

協力・和雄会

印刷所・関西大学まんが同好会印刷局

印刷局長・早川啓一